

SOLO GUITAR WORLD

2017 January

ソロギター 2 大対談

住出勝則 & 岸部眞明

- ◆特集 ルーツ・オブ・ソロギター
チェット・アトキンスを知る
解説：西山隆行

- ◆ふう吉愛用 Jack Spira Guitar

- ◆スコア
「Tree Of Life」伊藤賢一
「ラグリマ」F・タルレガ
解説：土屋祐介

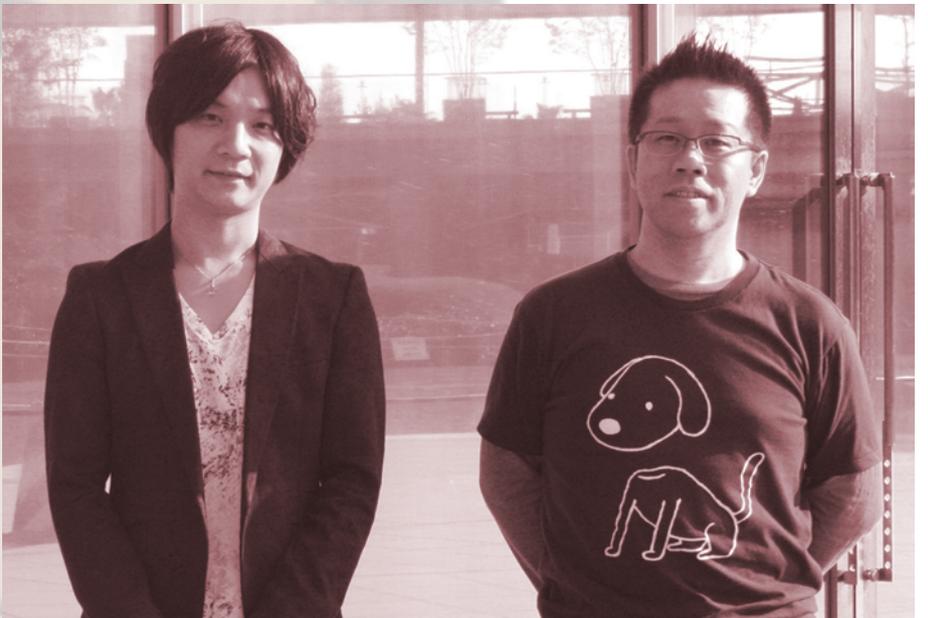


- ◆2016年ソロギターニューアルバム
インタビュー

松井祐貴 & 南澤大介

住出勝則
小松原俊
浜田隆史
豊田渉平
T-cophony

- ◆ギタリストによるレコメンド
小川倫生
Aki Miyoshi
井草聖二





ソロギター 2 大対談 vol.1

住出勝則 & 岸部真明

Masanori Sumide & Masaaki Kishibe

実力あるフィンガースタイルギタリスト二人が「M2」としてデュオのツアーを行った。ソロでは全く異なるスタイルの二人の魅力と、音楽への考え方、なぜ二人がデュオを組んだのかなど、ユーモアたっぷりに語ってくれた。

二本のギターでのアンサンブルというのは、頭を使いますね。同じことをしたら、ただうるさいだけになってしまいます。

—2016年12月に「M2」ライブツアーを名古屋、横浜、東京、埼玉で行われました。お二人のジョイントライブは海外では何度か行われていたと思います。

住出勝則 (以下、住出)：最初は2003年だったと思いますが、その後も海外で一緒だったり、以降、九州などで何度か二人でやりました。その時は、一部、二部と別々にソロで演奏して、アンコールで一緒にやるという形でしたね。今回はセッション曲を増やしました。アジアでは、8月に中国で5ヶ所のツアーを行い、その後、台湾でもやりました。日本のファンの方から「なぜ日本でやらないのですか？」とリクエストがあり、岸部くんに協力してもらいつつ日本でも実現しました。

—中国でのツアーはどのようなきっかけだったのでしょうか。

住出：台湾のファン・チア・ウェイさんの企画が、すべての始まりです。台湾、そして8月にやった中国ツアーのときから「M2」と言う名前は使ってたんですが、これは「勝則」と「眞明」の頭文字のMをとって、そうなっています。

—二人の演奏スタイルは大きく違うと思います。

住出：そうですね。わかりやすく言いますと、「明」と「暗」(笑)。性格も「明」と「暗」(笑)。だから、デュオの名前も「メイン」のほうが良かったかも・・・

岸部眞明 (以下、岸部)：僕が「明」ですか (笑)。

住出：いい意味でコントラストの違いもありますよね。今回は、デュオ曲を増やしていますし、デュオもソロも楽しんでもらえればと思いました。チャット・アトキンスとトミー・エマニュエルというように同じタイプでやるものいいですが、タイプが違うギタリストと一緒にやるのもいいですね。

—今回のツアーでのセッション曲は、どのように選曲したのでしょうか。

住出：「The Water Is Wide」「Wonderful Tonight」は、僕のアルバム「GOOD COMPANY 2」にデュオで収録しています。あとは、メロディの良い曲を選びました。僕には、オリジナル、カバーの垣根が無いんです。ライブでは、カバーが多い時もありますし、オリジナルの方が多くあります。昔、頑なに「カバーやバラードはやらない」と言っていた時期がありましたが、今は全く気にしていません。ライブでも、カバーが続いたから、次はオリジナルがいいかな、とか考えなくなりました。その会場、その時間に応じた選曲が一番なんです。僕の場合、あらかじめ演奏曲目を決めていますが、ステージに出てから数曲変えることもあります。

岸部：今回は、住出さんが僕のプレイに乗っかってきているものが多いです。

住出：アンサンブルというのは奥が深いです。二本のギターでのアンサンブルというのは、頭を使いますね。同じことをしたら、ただうるさいだけになってしまいます。そこをうまく、お互いに駆け引きするのが面白いところ

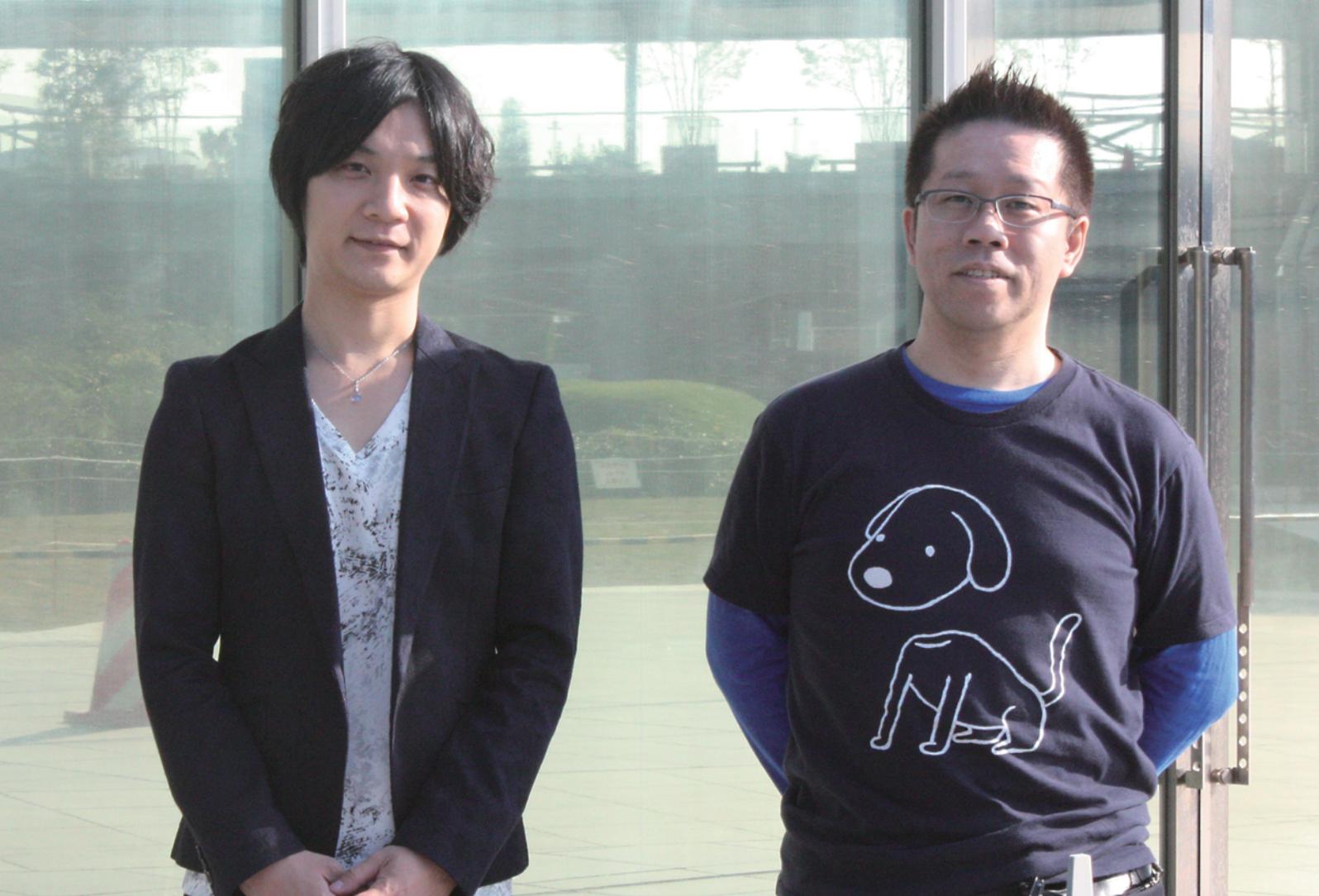
です。

—二人でツアーを行い、お互いどのような印象がありますか。

岸部：僕らは長い間ソロで活動していて、他のギタリストと一緒にライブをする機会は少ないです。僕はセッションというのは機会が少なかったこともあり、あまり得意な方ではありません。住出さんは過去にバンドもやられていて、合わせるのも上手です。ソロギターはそれだけで完成されているので、それに音を被せるというのはとても難しいのですが、住出さんのアイデアというのはすごいと思いますね。今回のツアーで演奏してい



Photo Yuji Noda



ソロギター 2 大対談 vol.2

南澤 大介 & 松井 祐貴

Daisuke Minamizawa & Yuki Matsui

ギタリストとして活躍している二人は、かつて音楽学校の講師と生徒。当時の状況や教えたこと、学んだことから現在の活動、それぞれ聞いてみたいことなど、意外なコメントも多く楽しくお話しいただきました。



Roots of Solo Guitar

チェット・アトキンス

アコースティック、エレキを問わず、ギターを弾いている人が必ず耳にするギタリスト、チェット・アトキンス。世界でも有数の名ギタリストだが、日本では意外と曲を聴いたことがない人が多い。トミー・エマニュエルやマーティン・テイラーなど、現役のトップギタリストが大きく影響を受けたチェットの音楽について、チェットのイベントにも参加を続けるギタリスト西山隆行さんに解説していただきました。チェットとはどのようなギタリストであったのか、初心者にはどのような楽曲から聴くべきか、その奏法、音楽性をなどを話してくれましたので、ソロギターのルーツとも言える音楽を是非耳にしてください。

解説：西山隆行

西山隆行プロフィール

<http://www.musictail.net/nishi/>

1981年生まれ 和歌山県 紀美野町出身

24才からギター（アコギ&エレキ）&ウクレレ講師のキャリアをスタート。

07&09年 Tommy Emmanuel Japan Tour でオープニング・アクトを務める。

Tommy より、アメリカ・ナッシュビルで開催される CAAS 2010 (Chet Atkins Appreciate Society) のオファーを受け出演。開催 26 年目にして日本人初参加を果たし、オーディエンスからも高い評価を受け 2010～2016 の 7 年連続出場。ニューヨーク・マンハッタンのお舗ライブハウス The Bitter End や TOMI JAZZ などでもソロ・ライブを開催。

"ゆず" のアルバム『TOWA』に収録されている「終わらない歌」「TOWA」「かける」「ミソラ」「いっぱい」でアコースティック・ギターのアレンジ&アコースティックギター・レコーディングを担当。2016年 台湾で初ソロライブを開催ハイブリッド・ピッキング&フラット・ピックでのギャロッピング奏法を得意としたアコギ・インストの活動、YAMAHA、Maton Guitars のデモンストレーター、島村楽器主催のアコースティックギター・セミナー、アーティストのサポート&レコーディング等で活躍中。

2011年、音楽スクール「musictail studio」を世田谷上北沢に設立。

2013年、ヨーロッパのケーブル・メーカー DL Cables とエンドースメントを結ぶ。

2016年、弦メーカーの SAVAREZ とエンドースメントを結ぶ。

現在、上北沢 musictail studio、Dolphin Guitars 東京恵比寿店&大阪江坂店、名古屋 KORG STUDIO EXTREME で講師を担当。



ふう吉愛用

Jack Spira Guitar

幅広いジャンルのフィンガースタイル・ソロギターを奏でるふう吉が愛用するのはオーストラリアの製作家であるジャック・スピラのギター。カスタムオーダーにより自身の演奏スタイルに合わせた仕様と、ジャック・スピラ・ギターの魅力を話していただきました。巻末にはジャック・スピラ・ギターの日本総輸入代理店からの紹介も掲載しています。



ふう吉 愛用 Jack Spira Guitar

—ジャック・スピラのギターはどのようにオーダーされたのでしょうか。

ふう吉：音が良いのはもちろんとして、演奏性も重要です。ネック、フレット、ボディサイズなど、何から何まで自分に合わせて作っていただきました。このボディシェイプは、それまでのジャックのレパートリーにはないものでした。ジャックが僕のCDを聴いてくれて、新しいスタイルをデザインしてくれたんです。

—一見するとOMのように見えます。

ふう吉：OMとも少し違うようで、一般的な型には当てはまらないようです。恐れ多くも、ふう吉の「P」をとって、P-1というモデル名にして頂いております。OMよりもボディの下が膨らんでいて、くぼみが深くなっています。くぼみが深い方が、ベースが出るそうです。少し縦に長い気もするし、ボディ厚は少し浅めですね。材質はトップがアディロンダックスプルース、サイド、バックはアマゾンローズウッドです。



指板、12フレットインレイ

—材質はふう吉さんの好みですか。

ふう吉：まずジャックが何種類かの候補をあげてくれました。それぞれの特性の説明を聞いたあとに自分で選んだんですが、結局定番の組み合わせになってしまいましたね…。

色々面白そうな木材も挙げて貰ってたんですが、一本目ということもあり、直球ど真ん中のセレクトになりました。

—インレイが目を惹きますね。

ふう吉：ジャックはインレイが大得意なので、お願いすればなんでも入れてくれると思います(笑)。僕は大好物のブタを入れて貰いました。ブタでお願いって言ったらジャックが大きなブタと足跡をデザインしてくれました。足跡は指板からヘッドまで続いています。ジャックは写実派なので、足跡をきちんと調べてリアルに再現しています。

12フレットだけもっと目立たせたいんだけどってお願いしたら、12フレットにブタがひっくり返したバケツ、食べかけのリンゴがあるなど、いろいろ案を出してくれたのですが、僕がブタのウンチが落ちてるのは？と言ったら何故か採用されウンチになりました(笑)。ジャックはやはり写実派なのでごくリアルなデザイン画を描いてくれて、茶色にもできる、と言って頂いたのですが(笑)、それはさすがにどうかと思ったので、日本の漫画的なデザインのウンチにして貰いました。こんなにウンチウンチ言って大丈夫ですかね…？

サウンドホール周りのロゼッタには小さいブタがいます。サンライズピックアップつけると子豚が一匹は生まれちゃう事に後から気付きました…。これからオーダーされる方は気をつけて下さい！

—日本ではギター製作とインレイは別というケースが多く、これほど凝ったインレイを自身で入れるのは珍しいですね。ちなみに、オーダーから完成までどのくらいの期間でしたか。

ふう吉：1年弱くらいですが、これは製作開始時期で大きく変わるようです。作り始めてからは2,3ヶ月だったと思います。ジャックは仕様が完全に決まるまでに時間がかかるんだって言ってました。サイズ、材質、インレイ、ロゼッタ、ペグ、フレットなど、僕も本当に色々ジャックと話しあいました。



2016 年ソロギター ニューアルバムインタビュー

小松原俊 Shun Komatsubara



[Hakushū]

2016 年 9 月発売

M-Factory

CD

¥3,000 (税込)

販売サイト (M-Factory)

<http://shop.mfac-guitar.com/items/3963952>

なんと 15 振りとなるニューアルバムをリリースした小松原俊。ライブ活動は精力的に続けており、新曲も披露していたので、ファンにとってはそこまで長い間隔だったとは意外だったかもしれない。

「白秋」というアルバムタイトルに対する思いと、各曲に対する思い入れを知ってアルバムを聴き返すと、さらに本作品の魅力が増すことでしょう。



[T-cophony]

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. Hysterick Park | 16. Tower |
| 2. October Sky | 17. Sleepwalker |
| 3. Twilight | 18. Movers |
| 4. Summer train | 19. Office |
| 5. Autumn street | 20. Social withdrawal |
| 6. Cycling road | 21. Mink |
| 7. Medicine | 22. Night out |
| 8. Chandler | 23. Trip in spring |
| 9. April rider | 24. Strange wind |
| 10. Friendless | 25. Recreation |
| 11. After rain | 26. Cumulonimbus |
| 12. Against wind | 27. When fall asleep |
| 13. 4 o'clock pm | 28. Meaning of life |
| 14. Minority | 29. Miscanthus |
| 15. Windy day | 30. Plugin |

2016年6発売
Double-Connect
CD

¥2,592 (税込)

販売サイト (Amazon)

https://www.amazon.co.jp/T-cophony/dp/B01F8NE2SE/ref=pd_sim_15_5?encoding=UTF8&psc=1&refRID=RJR7CVHF49TRMDJWD1CV

2016年ソロギターニューアルバムインタビュー

T-cophony

ベースやドラムが入っている楽曲が基本なので、ソロギターアルバムとは少々異なるがインストメンタルのギタリストとして魅力ある T-cophony。CD デビュー 10 周年を記念して作られたベストアルバムはデビュー直後の楽曲のリメイクが中心であるが、今聴いても色褪せることがなく、知らない人には最近作ったニューアルバムと言っても違和感はないだろう。楽曲が 30 曲のため各曲解説はないが、独特なレコーディング方法や現在の心境を語ってくれた。

小川倫生



© Michio Ogawa

ギタリストが影響を受けたり好んでいる3枚のアルバムのレコメンド。ソロギターアルバムに限らず、様々なジャンルから選ばれたマニアックとも言える嗜好と解説をお楽しみください。

小川倫生 プロフィール

<http://ogawa-michio.com>

1974年生まれ。

5才からクラシックピアノを始め、中学二年生でギターを始める。高校1年生の6月にカセットレーベル「Greenwind Records」を設立。

1998年にファーストアルバム「太陽と羅針盤」リリース。

1999年にギタリストのPeter Fingerが主宰するドイツのレーベルA M Rのコンピレーションアルバム「Acoustic Guitar MADE IN JAPAN」に参加。

2001年2ndアルバム「スプリングサイonz」リリース。

2003年3rdアルバム「Night Jasmine」リリース。

2006年4thアルバム「PROMINENCE」リリース。

2012年5thアルバム「Si Bheag,Si Mhor」リリース。

2014年プロデューサーとして東日本大震災復興支援プロジェクトCD「木を植える音楽」を担当。

2015年初のギターデュオアルバム「LAST TRAP/小川倫生&伊藤賢一」をリリース。

2016年2ndアルバムに未発表曲を含めた2枚組「スプリングサイonz incl. スプリングアナライズ」リリース

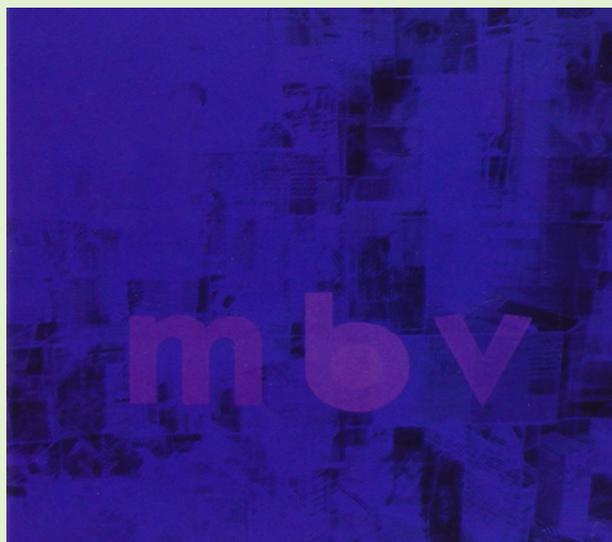


スプリングサイonz incl.

スプリングアナライズ

小川倫生

2枚組 2,500円(税別)



「MBV」My Bloody Valentine

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. she found now | 6. new you |
| 2. only tomorrow | 7. in another way |
| 3. who sees you | 8. nothing is |
| 4. is this and yes | 9. wonder 2 |
| 5. if i am | |

80年代末から90年代前半にかけてのシューゲイザームーブメントはリアルタイムに体験したが、マイ・ブラッディ・ヴァレンタイン(以降MBV)は数多のシューゲイザーバンドの中でも別格だった。

ロックの行き詰まり世代の一つの極は限りなく漂白されたノイズの中の美を見出す方向へと向かったように思う。エレキギターの轟音の狭間に聞こえる殆ど消えそうな歌声は我が青春時代の虚脱感にピッタリだった。

アコースティックギターと並行してソニックユースのサーストン・ムーアやMBVのケヴィン・シールズの幾層にも折り重なる実験的なギターサウンドにも強く興味を持った。

このアルバムは91年に発表された名盤「Loveless」から実に22年ぶりの新作だ。

儂くも官能的な雰囲気や揺蕩うメロディーは不変だった。数年前ライブを観ることができたが、その飽和状態を超えた轟音に見え隠れするロマンチズムを体全体で感じた。そして耳鳴りが数日取れなかった。